

教職大学院ニュースレター

内容充実の第5号発刊

新進気鋭の濱編集長が手懸けた渾身の誌面内容。何かと多忙な卒業前の一時を、ひたすら本誌の制作にかける!!

5

Spring 2020

中国実地研究報告

創価大学教職大学院の「特色ある授業」の一つである「教育課題実地研究」を受講した院生による体験レポート。



「胃袋つかまれた～」

創価大学教職大学院の総勢(精鋭)8名で、中国実地研究に挑んだ私達は、初日から充実した中国の食事に圧倒されました。生活の基本は「食」にあり!!をあらためて実感しました。

円卓を回すタイミングも、コミュニケーションの基本を学べる絶好のチャンスでしたよ。回すスピードも大事なんです。そして、自分の取り分を計算しながら小皿に入れることも…全てが学びの場でした～。味も量も大満足で、中国の食事に魅了され、すっかり胃袋つかまれてしまいました!!



「おー!!ここが万里の長城」

人生初の「万里の長城」に到着した感動は、忘れがたい思い出となりました。月からも見える(ホントは見えないらしい説あり)と言われている「万里の長城」は、観光客の人数もすごかった。世界のあらゆる国から千客万来～の勢いがありました。スマホを坂道で落としてしまい、スーッと滑り落ちた時にも、どこかの国の観光客の方が足で止めてくれました。“人類皆兄弟”を感じた「万里の長城」でした。



「児童の可愛さは万国共通!!」

中国実地研究の醍醐味は、何と言っても現地の小学校で授業をさせて頂けたことです。今回の実地研究では、社会と算数の授業を2日に亘って行うことができました。日本の良さが出せるようにと、授業案を作る段階から準備にも頑張りました。算数は、「ジグソー法」を取り入れ、社会は「防災」をテーマに授業を作りあげていきました。その甲斐あってか、中国の子ども達もとても良い表情で、授業を受けてくれ、一生懸命取り組んでくれました。もう会うことはないかもしれないけれど、将来、創価大学に来てくれるといいな～と心密かに願ってます。



「南開大学さわやか交流」

中国の周恩来元総理の母校「南開大学」も訪問させていただきました。創価大学の創立者池田大作先生と友情で結ばれた周恩来元総理は、どんな人物だったのか…南開大学の学生の皆さんが教えてくれました。ちょうど100周年を迎えた南開大学は、創価大学の2倍の歴史をもっていて、人民に尽くせる立派な人材を輩出しようとしていました。日本の学生もしっかり学んでいかなきゃと感じたさわやか交流ができました。太谢谢你了!!



【魅力・特色ある授業溢れる創価大学教職大学院「進学相談会」のお知らせ】「進学相談会」には、教職大学院の専任教員とともに現役学生も参加。皆様の様々なご質問にお答えします! また、教職大学院に関する質問は常時、下記の電話番号・メールアドレスにて受け付けていますので、お気軽にどうぞ。

○教職大学院HP: <http://kyoshoku.soka.ac.jp>

○電話: 042-691-9494 (代表)

○メール: kyoshoku-d@soka.ac.jp



創価大学

本年度、「教職修士」と、小中学校「専修免許状」を取得し、教職大学院を修了された皆様です。

修了おめでとうございます!!

※上から順に、氏名、期・コース別、研究テーマ、自分を漢字で一文字で表すなら?

原田 秀満
(10期 プロ3)
「プログラミング教育」



器

半田 愛実
(10期 プロ3)
「理科の探究的な授業が小学生の自己効力感に及ぼす影響」



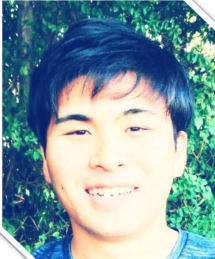
現

玉寄 秀幸
(10期 プロ3)
「小学校社会科における平和の心の育成を目指す授業提案について」



進

長野 修一
(10期 プロ3)
「子どもの自尊感情の捉えと教育的かかわり」



関

山本 美紀
(10期 プロ3)
「具体物の操作活動による抽象的な概念の理解に関する一考察」



爛

丸山 祐輔
(10期 プロ3)
「子どもの問題解決を支える『単元提示』の吟味」



敗

濱 佳子
(11期 プロ2)
「小集団による協同的な学習形態における児童の学習への関与」



誓

渡辺 優
(11期 プロ2)
「中学生の政治参加意識を高める公民的分野での授業開発」



寂

白尾 隆
(11期 プロ2)
「小学校国語科における多様な意見を引き出す授業提案」



挑

嶺井 勇哉
(12期 リーダー)
「考え、議論し、思考を深める道徳科の授業デザイン」



貫

岩本 亮介
(12期 リーダー)
「深い学びを生み出す授業デザイン」



人

山本 光男
(12期 リーダー)
「若手教師育成の視点に立ったミドルリーダーの関わりについての一考察」



光

【連載シリーズ】

修了生、あの人は今

須田雅子さん(11期リーダーコース、2019年3月卒業)

1. 教職大学院に入ろうと思ったきっかけは?

特別支援教育について自身で学び現場で実践をしてきましたが、もっと深く学びたいと思いました。

2. 教職大学院を修了してよかったと感じることは?

授業でのディスカッションや同期のメンバーと一緒に学ぶ中で、今までの自分の実践や指導方法を改めて振り返ったり、考え直したりすることができ、教師としての子ども観や教育観を見つめ直す良い機会になりました。また、教授や先輩方の学び続ける姿を通して、より良い教育実践をしていけるように忙しい中でも学び続けていこうとすることができました。

3. 今、研究を進めたいと思っていることは?

自校では、研究主任を務めていますが、研究論文で用いた学習意欲向上モデルであるARCSモデルの理論を、校内研究のテーマとして現在取り組んでいます。すべての子どもが楽しくわかることができる授業デザインを目指してさらに研究を進めていきたいと思っています。

4. 教職大学院時代好きだった場所?

中央図書館と本部棟13階のカフェテリア



5. 最後に在学院生に。

子供達を取り巻く環境が大きく変化している中で、現場に戻り改めて教師自身がもっと良い指導法はないかと追及し、新しいことにチャレンジしていくことを楽しむことが大切だと感じています。学ぶ楽しさを実感しながら、一緒に学ぶ仲間と共に充実した日々を過ごしてください。





院生

食

向



野田 清美
(11期 プロ3)



生畑目 光一
(11期 プロ3)



小原 英美
(11期 プロ3)



鈴木 結以
(11期 プロ3)



中嶋 伸也
(11期 プロ3)

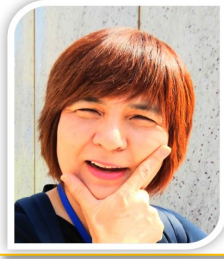
探

結

飲



山添 晃
(12期 プロ2)



北野 明子
(12期 プロ2)



布施 健一
(12期 プロ2)

未

一

猫



山下 球道
(12期 プロ2)



石渡 美咲
(12期 プロ3)



岩間 愛智
(12期 プロ3)

白

律

塾

余保賢一さん（9期プロフェッショナル、2019年3月修了）

1. 教職大学院に入ろうと思ったきっかけは？

元々、学部生の頃から教職大学院で教育の専門性を磨くことに興味をもっていました。そんな中、教員採用試験に失敗をし、自分の力不足を痛感。「今の自分の力量を、何割増しにも、何倍増しにもしてやろう」という思いで進学を決意しました。進学の後押しをしてくださった、学部のゼミ教員である吉川成司先生、また両親には感謝してもし切れません。

2. 教職大学院を修了して、学校現場に出て、苦労していることは？

院生時代は、「研究」や「実習」という意味合いで現場を経験させて頂きました。しかし、修了後は「仕事」として現場に出ることになります。まず、教師である以前に自立した社会人として振る舞い、立ち回れるようになるまでに沢山悩みました。生活リズムを整えること、職場の人と打ち解けること、責任ある職務をこなしていくことなど、「だいぶ(仕事に)なれてきたかな？」と素直に感じられるまでの期間は、自分としては苦労しました。でも、慣れてしまえば社会人は社会人で楽しい部分があると思っています。

3. 教職大学院を修了して、これは良かったと感じることは？その具体など。

一つは、「立ち止まって考える」という意識をわずかでも持っていることです。教職大学院での学びには、リーダーさんもプロ生もともに、ああだこうだと議論することができるという魅力があります。そういった機会の経験を経て、「考えることの大切さ」というものを学びました。日々の多忙の中でも、例えば校内研や初任者研などの場面で、「本質的なことは分からないけど、自分なりに考えてみよう」という意識が働いているような気がします。その土台を築かせてもらえた教職大学院は、本当にありがたかったなと思います。と同時に、修了生として更に活躍していこうというエネルギーにもつながっています！

4. 今、研究を進めている、進めたいと思っているテーマは？

研究という次元まで自分の意識をもっていけないのが恥ずかしいところですが、最近は「どのように授業の主導権を子どもに委ねていけるか」という課題意識をもっています。教師が握ったハンドルの通りに無理矢理に学ばせる、授業を受けさせるといった、子どもの元気がなくなるような授業をなくしていきたいと思っています。「考えてみたい!」、「それはこういうことじゃないかな!」と、「子どもが」生き生きと授業を盛り上げていけるような45分間は、一体どうすれば実現できるのか。国語だろうが算数だろうが、教科に関係なく共通して大切なものがあると思ひながら、それを少しでも掴めるよう日々自分なりに実践しています。

5. 最後に在学院生に、メッセージをお願いします。

特にプロ生はそうだと思いますが、職場の先生に自分のことを知ってもらえればもらえるほど、「この人は教職大学院を出ているのか」という目で見られるようになります。それは期待にもなるし、ハードルにもなるかもしれません。プレッシャーとして重く感じることも当然ありますが、だからこそ「お役に立てる自分になろう!」と、前向きになった方が絶対におもしろい気がします。現場のため、子どものためにもなるはずだと私は思っています。焦らなくても、創価大学教職大学院での学びは、どこからともなくその自信を沸かせていけるきっかけを皆さんに与えてくれます。共々に、日本中の教育現場にあえて言わせましょう。「やるじゃん、教職大学院!」と♪



「創価大学教職大学院の宝は、なんといっても共に学び合う仲間のお一人お一人だ!!」との

八王子八十八景の一つにも選ばれた創価大学には、学生や卒業生、教職員だけでなく、市民の方々からも愛されている名所がたくさんあります。今回号から始まる新連載「創価大学名所探訪」の第一回目は、「タゴール広場」です!!

創価大学が創立されてからは、歴史の浅い「タゴール広場」ですが、教職大学院V棟が立地する場所から最も近くて、最も身近な名所です。他の学部、大学院の学生も連日、ベンチに腰掛け、ひと休みしたり、談話したりしている憩いの広場でもあります。

広場の名称になっている「タゴール」とは、「ラビンドラート・タゴール」のことですが、どんな人物かという、一言でいうと、インドが生んだ大詩人です。「ギタンジャリ」というタイトルの詩で、ノーベル文学賞を受賞しています。この詩を拝するとタゴールは、調和を重んじた人物だったことがわかります。(読む人によって、見解が変わると思いますが…)

そして、銅像の銘文に刻まれている言葉に触れる度、小さなことで悩んでいる自分を反省したり、思いやりと優しさを考えたり、学ぶことの大切さ、更なる成長を真面目に考えたりします。

「人々の間に結合をもたらし、平和と調和を築くことこそが文明の使命である。」

タゴールのことをさらに詳しく調べていくとこんなことがわかりました。タゴールの祖父は、インドの近代企業の最初の経営者となって、イギリス東インド会社の属吏をつとめ、カルカッタで事業を興し、1834年退職後も銀行・商業・製糖・石炭・水運・船舶修理と、広範な経営を行って、インド企業者の最初の成功者となったそうです。凄腕のお祖父さんだったんですね。

そして、巨万の富を築いた後も、教育・慈善事業にも尽くしてカルカッタのプリンスと呼ばれたそうです。



↑タゴール像とプロ3石渡さん・岩間さん

そんな祖父の影響を受けたのか否か、タゴールは、遊蕩にふけることなく、インドの伝統的教育を受けたあと、イギリスに留学して、法律を学んでいます。ガンジーもたしか、法律を学んだあとにあの有名な「塩の行進」を実行していたり、非暴力の行動を重視したりしていますから、法律を学ぶことって大事なんだな～と思います。

タゴールは、イギリス留学の帰国後、詩作に専念して、代表的な詩集『ギタンジャリ』で東洋人として最初のノーベル文学賞を1913年に受賞します。1901年にサンティニケタン(シャーンティニケータン)に創設した学校は、1921年にビシバ=バーラティ大学となりました。数多くの歌や舞踊劇をつくって、古い民謡をもとに、新しい旋律をもつくりました。そして、タゴールの作詩作曲した『ジャナ・ガナ・マナ』 Jana Gana Manaは、インド国歌にもなっているんですね。

最後に、教職大学院有志が調べてくれたタゴールの言葉にこんな言葉がありました!!

「愛は理解の別名なり」

※本記事は「コトバンク」を参照しました!



↑銅板の前にプロ2北野さん



Report: 制作の現場から



プロ3石渡さん

写真に映っている気になる作品のことを、制作者お二人がこんなふうにご説明してくれました。

⇒材料は「ホイップ粘土」という紙粘土よりも水分量が多いものに、絵の具を混ぜて着色したものです。材料自分の肌で材料を感じながら描くことによって、汚れることを気にしない子どもの気持ちになって図工を楽しむことで、子ども主体の授業のイメージをつかむことや、これまでにない授業の発想を考えることができました。

教職大学院のプロフェッショナルコース3年制は、中高の教諭免許の他に新たに小学校教諭免許も取得するため、1年目のカリキュラムは、教育学部の科目も加わるため、忙しい毎日を送ります。中でも、楽しんでやっている科目があります…。

「図工科教育」!! この授業が終わると、毎回はしゃいで帰ってきては、V棟で自慢の作品を披露してくれます。教師として、最高の資質だな～と皆が応援しています。これからも頑張ってください!!



プロ3岩間さん

教職大学院ニュースレター 第5号編集部

【編集長】

濱 佳子 (はまちゃん)

【編集部】

半田愛実 (はんちゃん)

石渡美咲 (みさきまる)

岩間愛智 (あいちクン)

<編集部員募集>

編集部員の大量修了につき、またもや編集部員不足。記事の執筆や編集・校正に興味のある方、一緒に紙面を作りませんか?

